

2023年度外部研究評価委員会における主要意見及び国環研の考え方

物質フロー革新研究プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	それぞれのプロジェクトの研究が先端的で素晴らしい成果を出している。それぞれのプロジェクト間でも連携が図られ、研究成果を得ている。さらに、それら成果の社会還元も進めていることに敬服する。	プログラムでは各PJがTheory of Changeを設定して、研究のインパクトの目標とそれを意図したアウトリーチに努めております。各PJの研究成果や連携成果、成果の社会還元をご評価いただき大変嬉しく思います。引き続き努力してまいります。
	「革新技术に委ねる鉄の脱炭素化は、鉄鋼利用産業の将来操業を不安定化」は、大変厳しい見通しである。これは大変重要な成果なので、一般市民にも公表していただきたい。	日本語での記者発表を行い、その内容を朝日新聞が記事にして掲載しました。日本鉄鋼協会における講演大会や公開セミナーなどを通じた情報発信も予定しております。この他、国環研が企画する公開イベントなどを通じた一般向けの発信も積極的に検討していきたいと思っております。
	有害物質隔離構造物の安全性評価は、実社会への貢献も大きく、印象的な成果といえる。	ご評価いただきありがとうございます。今後、現実的な条件を考慮した長期安全性評価が行えるように現地調査、実験等で必要なパラメータを取得していきたいと考えています。
	UNEPの水俣条約に関する報告書への知見提供や国際資源パネルの旗艦報告書で4編引用されたことは大きな貢献と言える。	UNEP報告書や国際資源パネルの旗艦報告書は貴重な機会を幸運にも得たと理解しており、その点をご評価いただき嬉しく思います。
今後への期待など	今後は脱炭素と資源循環とのシナジーやトレードオフの状況明らかにすることを期待したい。例えば車関連産業などの具体的な取組への適応などが重要になると思われる。	物質フローの変革から脱炭素への道筋を作るという社会展開を具体的なパートナー（企業等）と共同で実施することで、本プログラムのインパクトを強めて行きます。その中で、障壁となるトレードオフの存在に注視したいと思っております。
	個々の研究成果の切り口が鋭いだけに、それが元にある大きな問題文脈に還元されてより広い研究や政策展開にまで繋がられるようになればさらに良いのではないかと考える。	「元にある大きな問題文脈に還元する」という思考に立って研究展開と還元を考え直すという取組は興味深いです。成果の新しい含意を見出すアプローチとしてぜひ試行したいと思っております。ご提案ありがとうございます。